



七尾の守人が語る

消防の現状や課題と これからの防災の在り方

消防署と消防団の現状

土本 組織としては、消防本部の下に二つの消防署があります。七尾市を管轄する七尾消防署と、中能登町を管轄する中能登消防署です。七尾消防署は、7つの拠点施設があります。七尾消防署、和倉分署、中島分遣所、能登島分遣所、灘浦分遣所、田鶴浜分遣所、徳田分遣所。中能登消防署は中能登町をついで管轄しています。

消防団との関わりは、消防本部と消防署を含めて、消防団の皆さんが活動しやすいようにコーディネートのような役割を担っています。

大湯 消防団は、七尾鹿島消防本部から、いろいろな指導を受け、円滑に消防団同士が連携をとり、今日があります。

杉木 七尾鹿島消防本部と消防団は、どっちが上とか下とかではなく、同レベルです。同じ火災現場に行つたときに、プロは消防士。プロの指揮下に入つて、消防団員は後方から活動に当たります。消防団は、消防署員の行動をサポートする役目を果たし、消防署員と消防団員がチームプレーをすることで、消火活動などが成立します。

同じ火災現場に行けば、消火や救助をするという目的は同じです。

土本 市民の皆さんと一番関係があるのは、救急車だと思います。今年、年間で2千800件を超える予測で過去最高の出動数となります。昨年度は、2千789件。これを的確な対応をしていかなければならないと考えています。

大湯 消防団共通の問題点といえば、団員数が少ないこと。第1消防団は271人の定数に対して、92%くらいです。しかし、92%という数字は、あくまでも表面上の数値。実際には団員として登録していても活動出来ないという団員も含まれています。

杉木 人口減少で、若い人が少なくなったことが団員不足の問題です。

杉木 大災害があれば、消防団は救助活動、避難施設運営に向かいます。災害についての消防団の役割や、消防署はこんなことをしているということ、市民の皆さんは知らないんじゃないでしょうか。

第1消防団と第2消防団、ともに抱える問題点

大湯 消防団共通の問題点といえば、団員数が少ないこと。第1消防団は271人の定数に対して、92%くらいです。しかし、92%という数字は、あくまでも表面上の数値。実際には団員として登録していても活動出来ないという団員も含まれています。

杉木 人口減少で、若い人が少なくなったことが団員不足の問題です。

題を引き起こしていると思います。わなければならぬですね。

時代の流れに対応するためには？

土本 人口減少中で、消防組織がどうあるべきかを考えなければなりません。平成22年の人口が5万7千900人。そして、30年後の平成52年には、3万5千880人まで減少するという見方があります。男性も恐らく半分以下に。その中で、消防団の人員の確保をしなければならぬのです。

大湯 やつぱり、消防団に入るということは、本人の意思も大事ですし、入りやすい環境を作

るために企業も協力してもらわなければならぬですね。

杉木 第2消防団は、若い団員に、友人たちを誘ってくれと言っています。結果的に、自助努力しなければ仕方がない状態です。

もう一つの問題は、全体的にサラリーマン化されていること。中島、田鶴浜の管内で自営業者が減りました。昔は、自営業をする若者たちが町を守ろうと消防団に入りました。今では、自営業者がなくなっているということが、団員減少の一つの原因です。団員は、七尾市街地に勤めている人が多く、「俺、火事なつても戻れんぞいや」と言われます。現実として、平日の

昼に地元にいる消防団員は、本当に少ないです。だから、日中の火災が起きた時には、大変困る状態となります。それが、今一番心配なところなんです。

それぞれの立場から、市民に伝えたいこと

土本 地域には、自主防災組織というものがあつて、消防団や消防署、そして自主防災組織をどうやって連携させていけばいいのか。今、考えているところです。自主防災組織の連携を通じてこれからの七尾市の形作りをやっていききたいと思

います。

大湯 今までの消防団は、縦の組織だった。今後は横の連携も強め、地域として、行政の足りない部分を補っていかなければなりません。自分たちでできる部分は自分たちでやる。そういったことを地域と消防団と一緒に考えて、できることから行動を起こしていく必要があるのではないのでしょうか。

杉木 今は、どこで大きな災害が起きるか分かりません。そんなことを考えると、自主防災組織も含め、消防署や消防団、市役所も交え、大規模災害を想定した訓練をするべきではないかと思つています。

私たち消防団員は、自分た

ちが住んでいる町に、地域貢献しているという思いが、誇りとなつていきます。自己満足かもしれないませんが、そんな人がもっとも増えてくれればと願います。わが在所くらい、自分たちで守りませんか。

大湯 そのようにしていかないと、地域の安全を守る環境は持続しないと思つています。

杉木 そこに住んでいる皆さんが、危機意識を持つてほしいです。本当に安全な地域は存在しません。そこに住んでいる人が考えなければならぬのです。



消防長 土本 幸太郎



第1消防団長 大湯 政行



第2消防団長 杉木 勉